

令和8年度事業計画

学校法人武蔵野大学

1. はじめに

現代社会はAIの進化やDXなどの技術革新、グローバル化、地球温暖化、武力紛争など様々な変化や課題が地球規模で渦巻いており、将来を予測することが困難な時代が続いている。また、国内の私立学校の環境は、急激な少子化が進む中、私立大学を運営する全国571の学校法人のうち100を越える法人が債務超過によって経営困難な状況にあり、統廃合が加速的に進むことが避けられない情勢である。

こうした中、本法人は、法人経営の持続可能性を確実にすることを目的とし、本法人の目指す姿を明示した「学校法人武蔵野大学グランドデザイン（以下「グランドデザイン」という。）」を令和5年度に策定し、グランドデザインに照らして第一次長期計画（令和2年度～令和11年度）を補正した上で、令和7年度より開始する第二期中期計画（令和7年度～令和11年度）を策定した。

グランドデザインの実現に向け、本法人はどのような状況下であっても、建学の精神「仏教の根本精神である四弘誓願を基礎とする人格教育」に基づき、設置校の特色ある教育研究を積極果敢に展開することで、仏教思想のもつ現代的な意義と可能性を世界に発信することを目指すとともに、ウェルビーイング社会の創造及び形成に貢献する人材を育成、輩出する。

また、益々厳しくなる経営環境のなかで、今後10年50年を展望しながら「法人の持続可能性を確実にする」ため、「改革とチャレンジにより成長する大学になる」を本法人経営の基本的な考え方とし、急速に変化する社会情勢を上回るスピードで適正な改革を確実に遂行する。健全なガバナンス体制の構築と維持、安定的な財政基盤の確立、計画的な施設整備、DXの推進、有為な役員及び教職員の確保・育成、戦略的な広報展開及び透明性のある情報公開等を通じ、教育研究活動等を魅力的に展開し、社会貢献を図りながら、持続可能な法人経営を確実にする。

これらを踏まえ、補正後の第一次長期計画に沿って諸施策を実行しているところであるが、限られた資源を最大限有効に活用していくためには、中長期財政計画に基づき、的確な財政運営を行っていくことが必要である。令和8年度事業計画は、グランドデザイン、補正後の第一次長期計画及び第二期中期計画に基づき、令和8年度に取り組む内容をまとめたものである。

2. 各設置校の教育方針

武蔵野大学 ・大学院	<p>① 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>武蔵野大学は、ブランドステートメント及び教育目的に定める人材を育成するため、授与する学位ごとに卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定めます。</p> <p>また、本学で学ぶすべての学生が、多様な人々のなかで「アクティブな知」を獲得し、創造的に思考・表現する力を備えて、世界の課題に立ち向かうため、以下の力を身につけることとし、各学科のディプロマ・ポリシーにて具体的な方針を示します。</p> <ol style="list-style-type: none">1 [知識・専門性]：学びの基礎力を基盤とした専門能力2 [関心・態度・人格]：他者と自己を理解し、自発的に踏み出す力3 [思考力・判断力]：課題を多角的に捉え、創造的に考える力4 [交感力・発信力]：多様な人々のなかで、自らの考えを表現・発信する力 <p>② 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>武蔵野大学は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる力を身につけるために、以下のように教育課程を編成します。</p>
---------------	--

	<p>初年次からの全学共通基礎課程「武蔵野 INITIAL」では、視野を広げること、スキルを身につけること、行動力を持つことを学ぶ科目群で、ディプロマ・ポリシーに示す1~4の力につながる学びの基礎力を養います。それを基盤として、学科科目では、専門能力を高めながら、世界の課題に立ち向かうために普遍的に求められる力を身につけられるように段階的、体系的な科目配置を行います。教育課程の実施にあたっては、「問う」「考動する」「カタチにする」「見つめ直す」という4つのステップを繰り返しながらともに学び、成長するという本学独自の学びのスタイル「響学スパイラル」の実践を通じて学びの効果を高めていきます。</p> <p>③ 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>武蔵野大学は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえた教育活動を実践するため、以下の者を受け入れます。</p> <p>【求める学生像】</p> <p>本学の建学の精神、教育目標を理解するとともに、育成する人材像に共感し、教育課程に積極的に取り組む姿勢を持つ者</p> <p>【受け入れる学生に期待する能力・態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 [知識・専門性] 各学科の教育を受けるのに必要な基礎知識を備えている 2 [関心・態度・人格] 他者と自己を理解し、自発的に踏み出す意欲を持つ 3 [思考力・判断力] 課題を多角的にとらえ、創造的に考える意欲を持つ 4 [交感力・発信力] 多様な人々のなかで、自らを考え表現・発信する意欲を持つ <p>【入学選抜の基本方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学部・研究科の教育目的に相応しい人材を多面的に審査・評価する ・ 基礎学力と専門教育に関係する教科の理解度、並びに人物の適性等について審査・評価する ・ 学力だけでは見出すことのできない能力や意欲、将来の可能性等を高校在学時の活動状況等から審査・評価する
<p>武蔵野大学 中学校・高等学校</p>	<p>① 育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「明るい知性」と「豊かな情操」とを兼ね備えた「聡明にして実行力のある人物」であること。 ・ 「人の幸せを願う心」「自己中心、自己絶対視を改める心」「正しい判断力」「良き社会人として通用する自立心」をもつ人物であること。 ・ 何事にも真摯に取り組み、社会の幸せを希求する教養溢れる自律した人物であること。 ・ 論理的思考力を身に付け、課題を正しく理解して解決を目指して挑戦できる人物であること。 <p>② 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科とも学びの基盤となる「知識と技能」を十分に習得できるように編成する。 ・ Howに留まらず Whyを重視する学びを実践、論理的思考力を育成する。 ・ 宗教教育を拠り所の一つとし、課題解決のための探究活動を実施する。 ・ 探究活動について、課外活動も積極的に実施する。 <p>③ 入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育を受けるに足る資質と能力が十分にある生徒。 ・人格形成のための六つの徳目「布施・持戒・忍辱・精進・禪定・知恵」の実践に共感する生徒。 ・常に挑戦し続け、変化を恐れず、社会貢献するために自立する気持ちのある生徒。
千代田中学校・高等学校	<p>① 育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分もみんなも幸せになる未来をつくる」一人として、視座が高く、世界のウェルビーイングの実現に寄与する人物であること。 ・「学ぶように遊び、遊ぶように学ぶ」を体現する人物であること。 ・多様な価値観を受け入れ協働することができる。 ・学術ならびに実社会の場で新たな価値を生み出すためのマインドセット、ナレッジおよびスキルを身につけている。 <p>② 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究活動やLAPの活動を通して「好き」や「得意」を深く掘り下げアカデミア、アントレプレナー、ソーシャル・イノベーションの分野で社会に貢献する。 ・研究活動やLAPの活動と教科学習とが接続するカリキュラムにより、自分の興味を教科・科目に広げ、学問の本質を楽しく追究する。 ・産学官民との連携を通して、多様なトップランナーや大学院生・大学生とともに「未来をつくる」ための研究活動やプロジェクト活動に取り組み、広く社会に発信する。 <p>③ 入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分もみんなも幸せになる未来をつくる」という志を持つ人。 ・「楽しく学ぶ」という目的意識を持ち、高い学力と視座を身につけるために意欲的に学習へ取り組む人。 ・多様な価値観を大切にすることができる人。 ・本校の教育理念に共感し、教科学習、研究活動、プロジェクト活動などに主体的に取り組む、世界へ貢献する姿勢を持つ人。
武蔵野大学附属幼稚園	<p>【園ビジョン】子どもも大人もウェルビーイング ～「20年先を見据える新しい教育。」を通して～</p> <p>【めざす園児像】世界の幸せをカタチにする人の芽生え 「深い探究心」と「高い自己肯定感」が育っている子ども</p> <p>【教育目標】 よく遊び、よく考える子（探究）／じぶんも人も、大好きな子（自己肯定感）</p> <p>【大切にしたいバリュー】生命・人権・感謝・慈悲・信頼・誠実・尊重</p> <p>【大切にしたい子ども観】「子どもはもともと主体的な学び手」</p> <p>【大切にしたい教員の姿勢】傾聴・質問・承認・対話・受容・共感・足場かけ</p> <p>【教育内容】</p> <p>① 「深い探究心」が育つプログラム 5領域の「探究」 「人への探究」（人間関係領域）／「運動への探究」（健康領域）／「科学への探究」（環境領域）／「言葉への探究」（言葉領域）／「自分への探究」（表現領域）</p> <p>② 「高い自己肯定感」が育つプログラム 「仏教の教え」：いつも仏さまと一緒に</p>

	<p>「自己受容」：ありのままの自分を受容する機会</p> <p>「他者貢献」：他者へ貢献する機会の保障</p> <p>「自己決定」：自己選択、自己決定の場の保障</p> <p>「チャレンジ」：失敗からチャレンジできる機会の保障</p> <p>「自分軸」：自己評価、相互評価の機会の保障</p>
武蔵野大学 附属有明こ ども園	<p>「響き合う保育」の教育理念の下、一人ひとりの個性を大切にし、持てる力を発揮させながら、子ども同士、子どもたちと保育者、保護者が関わり合い育ち合うことを目指す。具体的には以下の3つの取り組みを通して、小学校からの学びに主体的に取り組む姿勢と、予測困難な時代に必要な「生きる力」の基礎を育む。</p> <p>① 自らの可能性を最大限に活かして目標達成に導く自己実現力を身に付ける 様々な体験を通して、ものの不思議さに気づき、追求する喜びを感じ、成就感や達成感を味わい、興味・関心を広げていく。また、工夫して遊ぶ楽しさや、他者から認められる喜びを味わうことで、自信につながり、“生きる力”の根源でもある自己肯定感を高め、自己実現力を身につけていく。</p> <p>② 本物に触れ、豊かな感性を育てる 武蔵野大学各学部と連携して、学内外の各分野の専門家による“わくわくプログラム”で本物に触れる体験を通して、豊かな感性を育む。</p> <p>③ 仏の心を大切に 浄土真宗本願寺派の大学附属こども園として、生命の尊さに気づき、万物の恵みに感謝できる、心優しい子どもを育てる。</p>

3. 各設置校及び法人の取組

(1) 武蔵野大学・大学院

チャレンジA ウェルビーイング社会の創造に貢献する Creative な実践者の輩出

全学のアセスメント・ポリシーや卒業満足度アンケート、DP、ルーブリック評価、キャリア教育科目等、現行の指標、評価基準、教育内容についての現状分析をもとに、今後の方向性や方針を確定し、展開を開始する。また、卒業生在籍企業との接触の強化を継続すると共に、卒業生SCAに関する情報の精査、分析結果をもとに卒業生との連携体制構築に向け具体的施策を実行する。

チャレンジB スチューデント・サクセスを実現する響創的な学修の推進

スチューデント・サクセスの実現に向けた教育構造の再編とそれに伴うカリキュラムの再構築及びそれを実現する学修環境の整備について具体的な検討を進め、令和9年度からのトライアル実施に向けて準備する。併せて、学びの魅力向上のための副専攻科目及び共通科目拡充の施策検討を行う。また、建学の精神を具現化する人格教育の推進、AI副専攻の修了者増に向けた運営体制の強化、グローバル感覚を醸成する留学・海外研修の促進、IRデータを活用した学生支援体制の構築を進める。

チャレンジC MUのブランドに共鳴する学生の安定的な確保

データ分析・検証を反映した入試制度及び入学前教育等の見直し・改善に向けた施策立案と併せて、接触経路別歩留率等の検証を行う。各種基準に適合した入学者の設定及び入試別等の入学者数の計画、検証を行う。スチューデント・サクセスを基調とした広報の展開としては、大学の教

育力や魅力を多角的に発信し、対象となる受験者層及び高校等との関係を強化することで、大学のブランド価値向上と安定的な学生確保を目指す。

チャレンジD 多様な学生・教職員が集い、Creative な実践者を育む体制の整備

世界のウェルビーイング向上に寄与する大学としてDEIを推進するため、基盤となる推進体制の決定及び規程の整備を進める。多様な学生の活動支援をより積極的に行うため、支援体制整備を含めた方針を検討し、留学支援・留学生の満足度向上施策の実施と中間検証を行う。教職員の多様性の促進のため、働きやすい環境及び教員研究環境の整備の施策の提案、基幹教員制度の導入、海外大学とのクロスアポイントメント制度の体制構築に取り組む。キャンパスにおける学生の居場所の充実と多様な学生への配慮に向けたキャンパス整備の施策案を策定し、段階的に実施する。

チャレンジE 新たな教育市場と価値創出

グローバル市場での価値創出に向け、共同研究や特許の共同出願等の機会創出方策を実施するほか、共同研究シンポジウムを開催する。また、アジアにおける教育コンテンツ等の市場開拓に向け、具体的方策及びスケジュール案を策定する。さらに、新たな学びの提供に向け、通信教育新コース設置準備や生涯学習講座の受講者増加に向けた SNS 広報の拡大、学部改組や研究科再編の検討を進めるほか、教室依存しない教育形態に関するトライアル実施準備を行う。

(2) 武蔵野大学中学校・高等学校

各教育プログラムの充実化に向けて、社会貢献に関わる教材発掘や指導案の作成、生徒の自学自習力の習慣化を促す学習システムの構築、中学理科授業における実験実習の積極導入に取り組む。教員の学級運営力・授業力向上のために、十分な研修や授業研究を取り入れ、教員の育成と能力の研鑽を進める。学外広報の強化を図り、募集定員の充足を目指す。

(3) 千代田中学校・高等学校

中学校と高等学校の接続を踏まえた各コースでの新カリキュラムを実施する。外部機関、外部人材との連携を強化し教科指導力の向上を図る。教員の授業力と協働性の向上のために、更なる授業研究や研修を進め、教員の育成と組織体制を確立する。戦略的な広報活動や研究活動等に必要施設を整備していく。

(4) 武蔵野大学附属幼稚園

社会・地域ニーズを捉えた新たな特色ある教育プログラムの構築及び展開、教育学部幼児教育学科との更なる連携、並びに預かり保育や課外活動等の充実により、保護者及び地域の方々の幼稚園への満足度、信頼度の向上を図る。園生活・保育の見える化及び広報発信を強化し、本園の特色を分かりやすく園内外に積極的に発信する。

また、子どもの深い探究心と高い自己肯定感が育つ環境づくりの探究を実践すべく、教員による教育・保育の在り方の研究を継続する。

(5) 武蔵野大学附属有明こども園

園児募集は1号3歳児の入園者40人確保を目標として、継続的に取り組む。また配置基準の改

正や園児数の減少に応じて人員配置を見直す。

教育・保育面では特長であるわくわくプログラムを拡充するとともに、地域のニーズに合わせて担当教員等と連携して内容の見直しを図る。

(6) 法人

法人の絶え間ない改革と安定した成長・発展を支える法人・教学ガバナンス及び内部統制システムの適切な運営を徹底し、寄附行為及び関連規程等に基づいた業務執行を推進する。併せて、改革と発展の原動力として「建学の精神を堅持する体制の確立」及び「法人・教学のD X化」を軸に、以下を重点として取り組む。

- ① 建学の精神の堅持及び未来への継承を支える法人・教学一体の体制を確立する。
- ② 教学ガバナンス体制の実効性を検証し、教学運営の定着状況及び課題を把握の上、体制強化と運用改善を図る。
- ③ 事務局各部署の適正人員配置に基づく長期人事計画を策定・運用し、組織の活性化を図る。また、資格別研修プログラムの体系化・制度化により職員の能力向上を図る。
- ④ 法人広報戦略に基づく広報展開及び広報体制の強化により、法人広報と入試広報を一体的に推進し、重要施策の選択と集中により重点的かつ効果的な広報を展開する。
- ⑤ 100周年記念事業で収集・デジタル化を行った過去の資料等を整理し、龍谷ミュージアムとの関係構築を行い、武蔵野大学カンファ・ツリー・ヴィレッジ・センター（仮称）の開設に向けた準備を実施する。
- ⑥ 令和7年度に見直しを行った同窓会データベースを活用し、同窓会の活性化に向けた情報発信力を強化する。
- ⑦ 長期財政計画（10年間財政計画）の継続的な更新並びに資金運用の多様化及び固定資産の有効活用により、安定的な財政基盤を確立する。
- ⑧ 学校法人武蔵野大学危機管理マニュアルの更新・適切な周知により、危機管理の有効性を確保した災害対応力を向上させる。
- ⑨ 武蔵野キャンパスマスタープラン、有明キャンパス設備更新プラン、千代田キャンパス建替スキーム等を検討し、長期施設設備等整備計画に基づく計画的な施設等整備を進める。
- ⑩ 「学校法人武蔵野大学D X推進基本計画」に基づき、各部門のD X化を着実に推進する。